

## 調査事業に係る事後評価記載様式

### I 総合評価

全体として、地域の主体的な取組みと創意工夫による公共交通の活性化・再生を通じ、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現に寄与するための連携計画の策定に向けて必要な調査を行ったか。

法定協議会を適切に開催し、地域における公共交通の問題点・課題を幅広く把握した上で、地域公共交通に関する目標を適切に設定し、当該目標を達成するための事業を具体的に検討する等、連携計画策定に向けて必要な情報収集と調査を行い、計画事業の実施に向けて地域関係者の実質的な合意形成を図った。

### II 連携計画策定調査の総合性・整合性

#### 1 調査の範囲

##### ① 当該地域における公共交通の問題点・課題を幅広く体系的に把握したか。

大桑村の各地区について、地域概況、公共交通の現況、住民生活の実態、公共交通へのニーズについて地勢、道路網、居住者年齢別分布、運転免許保有率、主要施設（公共施設、医療機関、福祉施設、学校、公民館、商業施設、観光施設等）の配置、隣接町村との連携の状況、公共交通サービスの状況等に係るデータ資料を整理するとともに、公共サービスに対する要望等に係る住民アンケート調査やバスに係る利用実態調査を実施することにより、地域における公共交通の問題点や課題を幅広く把握した。村内南北地域による依存エリアの違い、谷あいの集落の交通不便状況などが明らかとなった。（別添の大桑村地域公共交通総合連携計画の素案を参照）

##### ② 当該地域における公共交通以外の問題点・課題との関係を整理しているか。

小学校・保育園の統合により、スクールバス・保育園バスの重要度が高まり、生活系路線の計画における制約が大きいことが問題となっている。加えて、遠距離通学生徒には、JR定期券を補助している。その他、村内温泉施設のリニューアルに伴い、温泉バスの運行も行われるなど、施策が複雑化している。（別添の大桑村地域公共交通総合連携計画の素案を参照）

#### 2 地域公共交通に関する目標の設定

##### ① 地域の実態を踏まえた地域公共交通に関する適切な目標（案）をできるだけ具体的に設定したか。

バスに係る利用実態調査を実施することにより、バス利用者数及びバス利用者の満足度を把握した上で、今後5年にわたっての毎年の目標数値を地域公共交通に関する目標として設定している。大桑村地域公共交通総合連携計画の素案を参照とし、隣接町村との連携による利用者の旅客流動並びに、村内の公共交通の改善による利用者の増加が見込まれる点で適切な目標と言えるほか、またその検証しやすい特徴（具体性）を有している。（別添の大桑村地域公共交通総合連携計画の素案を参照）

##### ② 上記の目標は社会、住民ニーズや地域の基本的な計画を踏まえたものか。

公共交通に対する要望・意見等に係る住民アンケート調査結果や平成21年に策定された第4次大桑村総合計画後期基本計画の内容を踏まえ、地域公共交通に関する目標を設定している。（別添の住民アンケート調査及び第4次大桑村総合計画後期基本計画を参照）

#### 3 地域公共交通に関する目標と事業との対応関係

##### ① 地域公共交通に関する目標（案）を達成するための事業（案）が選び出されたか。 また、地域公共交通に関する目標（案）と事業（案）との関係は合理的か。

隣接町村との連携を図ること、JR中央西線を活用すること、山間部集落をきめ細かくサポートすることを掲げ、幹線系バスの体系の改編とデマンド乗合タクシーの運行により、利用者ニーズにあった運行を達成し、利用者増加を達成するため、2種類の実証運行を取組事業の案として選定した。（別添の大桑村地域公共交通総合連携計画の素案を参照）

\* 必要に応じて、参考資料を添付してください。

<p><b>Ⅲ 自立性・持続性</b></p>
<p><b>1 事業の実施に向けての準備</b></p>
<p>① 地域公共交通に関する目標(案)を達成するための事業の内容やそのスケジュールが具体的に検討されたか。</p>
<p>循環等バス利用者の満足度、バス利用者数について地域公共交通に関する目標を定めているが、これらの目標を達成するため、既存バス運行時間等改善後の実証運行、JRとバスの接続改善、通院バス新規路線の導入、村内循環線の改善によりデマンドタクシーの実証運行を取組事業として選定しており、これらの取組事業についての具体的な内容やスケジュールを決定するため、法定協議会に幹事会を設置し、会議を5回開催した。</p>
<p>② 事業実施による効果・影響に係る把握方法や評価基準・評価方法が検討されたか。</p>
<p>循環等バスの実証運行及びデマンドタクシーの実証運行の双方について、実証運行の実施において毎月1回調査員による実態調査を行うことで事業による効果・影響を把握していく内容で検討している。また、実証運行に係る具体的な達成目標(評価基準)は、実証運行の区間における平均乗車人数を定め、デマンドタクシーの実証運行に係る具体的な達成目標(評価基準)は1ヶ月あたりの利用者数を定める予定で検討中である。この具体的な達成目標と実態調査により把握されるデータである実証区間における平均乗車を比較し、事業の評価を行うことを検討中である。</p>
<p>③ 事業の実施主体が検討されたか。</p>
<p>循環等バスの実証運行及びデマンドタクシーの実証運行の実施主体については、各交通事業者から意見等を聴取し、幹事会において協議の上決定する。</p>
<p><b>2 事業の実施環境</b></p>
<p>① 実証運行、情報提供等の事業の実施のための財源について検討を行い、当該事業を実施するための財源の目処がついたか。</p>
<p>平成22年度において循環等バスの実証運行、JRとバスとの接続の改善及びデマンドタクシーの実証運行の事業を実施するにあたっては、総合事業(計画事業)による国費のほか、大桑村からの財政支出によるということで関係者の合意を得る予定であり、平成22年3月議会に平成22年度予算案を提出し、村議会において審議してもらう予定である。</p>
<p>② 住民等による自主的な利用促進、啓発等の活動や協賛金拠出への協力等事業の実施環境が整いつつあるか。</p>
<p>幹事会において、総合事業(計画事業)による循環等バスの実証運行の終了後に、バスが自主運行できるようにするためには、地域住民による協賛も含め協議し、住民へ協力を求める方法について検討する。</p>

\* 必要に応じて、参考資料を添付してください。

#### IV 住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成

##### 1 協議会における審議体制等

① 協議会における審議事項が明確に定められ、調査事業の進め方、実施状況について審議される体制となっているか。

法定協議会の運営要領が第1回法定協議会で決定され、制定されており、法定協議会の審議事項は、調査事業の進め方、調査事業の実施状況、調査事業に係る自己評価、連携計画の策定、計画事業の進め方、その他法定協議会において必要と認めた事項と規定されている。また、法定協議会で決定した場合は、法定協議会における審議を幹事会を設置し、幹事会において行うことができるとされており、計画事業の進め方のイメージについては、幹事会を設置して審議している。

② 協議会に住民が参加したり、住民の意見が反映される仕組みが設けられているか（公募制、住民意向調査等の実施が協議会の運営要領において定められているか。）。

法定協議会の構成員には大桑村の公募による住民代表や老人クラブの連合会長が含まれており、調査事業の進め方を法定協議会で審議した上で、交通サービスに対する要望等に係る住民アンケート調査を実施し、調査結果について法定協議会で説明を行っており、住民の意見が調査事業に反映される仕組みが設けられている。

##### 2 協議会における審議

① 調査事業を実施するにあたって協議会が適切に開催されたか。

第1回法定協議会においては、法定協議会の審議事項も含む運営要領が決定され、それ以降の法定協議会においては調査事業の進め方、実施状況が報告・審議されたほか、法定協議会においては調査事業に係る自己評価報告を報告・審議予定で、調査事業を実施するにあたって法定協議会が適切に開催された。なお、計画事業の進め方のイメージについては、幹事会を設置し審議を行っており、計画事業の円滑な導入に向けての検討も行う予定である。

② 協議会の議事が傍聴、議事録の公開等によって適切に開示されているか。

法定協議会の運営要領において、議事の傍聴は原則可能であること、アンケート調査結果についてはインターネットのHPにおいて公開した。

##### 3 地域関係者の実質的な合意形成

① 地域公共交通に関する目標(案)やそれを達成するための事業(案)等について地域関係者の実質的な合意が形成されたといえるか。

法定協議会において調査事業の進め方、実施状況が報告され、幹事会では計画事業の進め方のイメージが審議されているが、計画事業の実施主体については法定協議会とする。計画事業の実施に必要な費用は国費のほか、大桑村からの財政支出による。実証運行の実施においては、調査員による実態調査を行う等について、関係者の合意を図る予定となっている。

\* 必要に応じて、参考資料を添付してください。

## 地域における公共交通の現況・問題点

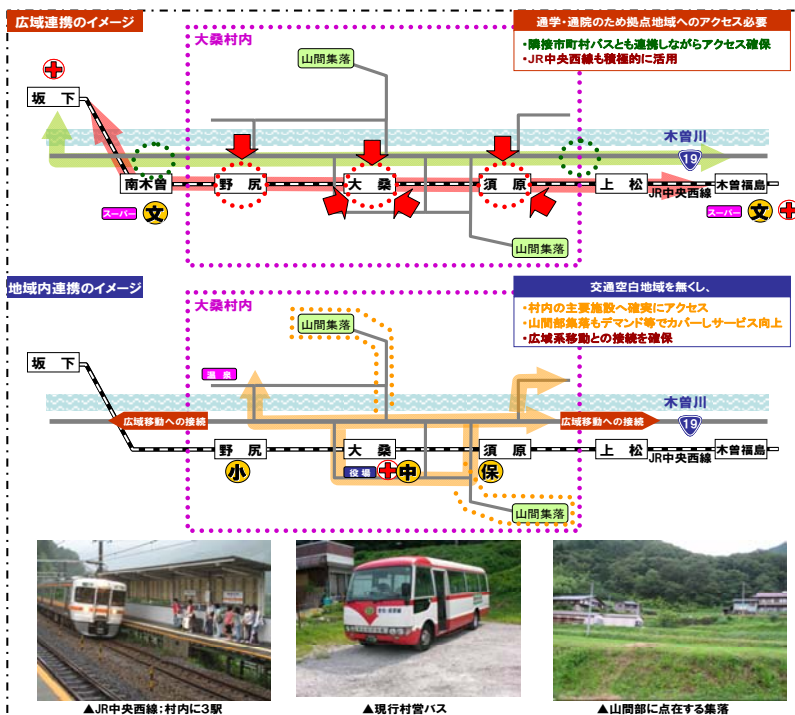
大桑村は、長野県南西部に位置する人口4,300の山村である。村の中央部を木曾川が縦断しており、これに沿って国道19号、JR中央西線が走っている。村内には、総合病院や高校がないため、高齢者や高校生は郡の中心地である木曾町（福島）や岐阜県中津川市に生活を依存せざるを得ず、公共交通の必要性が高い地域と言える。村の公共交通としては、JR中央西線と村営コミュニティバス、総合病院への通院バスが柱になっている。JRについては、普通列車のみの運行となっており、日中は、2時間に1本程度の運行しかなく、利便性が高いとはいえない状況にある。コミュニティバスは、村内のJRの3つの駅を含む村中心部と周辺の地域を結んだ運行がされており、高齢者等の交通不便者にはなくてはならない交通機関となっている。利用者数についても、平成14年の運行開始以来、利用者は徐々に増加してきている。木曾病院行き通院バスについては、隣接する上松町民の利用もあり、1便あたりの利用者数が、12.5人と利用者が定着している。一方、運行時間や停留所、運行ルートの制限もあり、住民ニーズにあった運行形態が取りづらいのが現状であるほか、山間部集落については、1日1往復のサービスしか提供できないなど問題も多い。これらを受けて地域の実情にあった交通体系を構築すべく、地域公共交通総合連携計画を策定するものである。

## 大桑村地域公共交通協議会

- 設置年月日：平成21年3月16日
- 構成員：大桑村、おんたけ交通(株)、おんたけタクシー(株)、南木曾観光タクシー(株)、運送事業者組合代表、北陸信越運輸局長野運輸支局、県庁交通政策課、木曾地方事務所、飯田国道木曾維持、木曾建設事務所、木曾警察署、上松町、公民館、商工会、社会福祉協議会、交通安全協会、老連代表、民生委員、住民代表

## 大桑村地域公共交通総合連携計画(案)

- 総合連携計画の区域 大桑村、上松町、木曾町、南木曾町、岐阜県中津川市
- 基本的な方針
  - ①広域連携の向上
  - ②地域内連携の強化
  - ③生活移動を保障する公共交通機関の確立
  - ④持続可能な公共交通の整備
  - ⑤安全・安心な公共交通の整備
- 総合連携計画の目標
  - ①公共交通の利便性の向上
    - ・既存バス路線を見直し、利用者数の5%増加を目指す。
  - ②公共交通による地域間の連携強化
    - ・交通空白地域の解消、JR3駅と山間地域とを結ぶ公共交通網の強化
    - ・循環線の一部見直し、デマンドタクシーの導入を行い、1日平均利用者数の増加を目指す。
  - ③公共交通利用者の拡大
    - ・公共交通の利便性の向上を図るとともに、利用促進のためのPRを行う。
- 事業及び実施主体
  - ・循環線、運行、時刻の見直し及び通院バス新規導入(実施主体：おんたけ交通)
  - ・指定地区におけるデマンドタクシー実証運行(実施主体：タクシー会社)
  - ・公共交通利用促進PR(実施主体：大桑村地域公共交通協議会)



# 大桑村地域公共交通活性化・再生総合事業（調査事業）の概要

## 連携計画策定調査

### 実施した調査の内容

- ①地域概況調査  
広域的位置づけ、地形、人口動態、施設立地、道路網 等
- ②公共交通調査  
大桑村内の公共交通および隣接する自治体の交通施策について  
事業主体、事業形態、使用車両、稼働状況、利用人数、運賃、事業費、問題・課題 等
- ③住民ヒアリング調査  
村内全6地区について、懇談会形式で現況、意見、要望等を聴取
- ④公共交通住民ニーズ調査  
村内全1532世帯／高校生以上回答対象／回収率70.1%  
日常の交通行動（目的地、目的行動、時刻、頻度）、公共交通へのニーズ 等
- ⑤公共交通体系の検討調査  
基本方針設定、サービス水準、運行形態、路線、ダイヤ、運賃設定

### 地域住民の意見の反映

- ・利用者代表が参画する大桑村地域公共交通協議会を4回開催し、協議を行った。
- ・村内5ヶ所において懇談会を開催し、地域の現状・ニーズ把握を行った。
- ・住民アンケート結果についてインターネットHPで公開した。

### 協議会における検討

#### ○法定協議会開催状況

H21.3.16(第1回協議会)

- (検討内容) ・大桑村地域公共交通協議会設置(構成委員、協議会規約等承認)  
・調査事業に係る予算(案)について  
・連携計画策定調査スケジュール、調査内容検討

H21.7.1(第2回協議会)

- (検討内容) ・地域における公共交通の現状調査結果の報告  
・住民ニーズ調査方法(アンケート調査)の検討

H21.12.22(第3回協議会)

- (検討内容) ・住民ニーズ調査(アンケート調査)の結果報告  
・大桑村における交通体系の検討  
(デマンドタクシーの導入)

- ・大桑村地域公共交通総合連携計画素案の提示、検討

H22.2.1(第4回協議会)(予定)

- (検討内容) ・大桑村地域公共交通総合連携計画素案の検討  
・次年度から実施する事業計画について検討

#### ○協議会の公開状況

協議会については原則公開している

### 地域の問題点・課題

#### 【地域概況】

- ・木曾川に沿った谷あいには村域が展開。大半が急峻な山間地で平坦地は少ない。
- ・山間部にも小規模集落が点在し、村中心部までのアクセスに支障がある。
- ・高齢化率35%、人口は40年で45%減少、高齢者数は2.5倍に。
- ・国道以外は大型車のすれ違いが困難な道路がほとんど。

#### 【交通施策】

- ・村内に3箇所のJRの3駅があり、1日10往復運行。日中は2時間に1本程度であり利便性は高くない。
- ・村営バスは、スクールバスを土台としており、ルートやダイヤ設定などに制約大。
- ・病院行きバスは利用が好調も、運行時間が診察時間にマッチしていない。

#### 【住民生活形態】

- ・就業、通学、通院、買い物等においては、木曾福島と岐阜県中津川市に依存するが、双方とも所要時間が40分程度と長い。
- ・現在、交通不便者は約3割。70代以上の高齢者は1/3がこの先5年以内に運転をやめる可能性を示唆。
- ・村南部では岐阜県の坂下病院へのニーズが多いが、直通バスがなく、JRを利用。駅の階段や駅から病院までの移動が大きな負担となっている。

### 地域関係者の合意

# 大桑村地域公共交通活性化・再生総合事業（調査事業）の概要

## 連携計画策定調査

### 地域公共交通に関する目標(案)

#### ①公共交通の利便性の向上

- ・利便性向上のためのダイヤ設定、運賃設定、時刻表作成などにより利便性が向上した点を具体的に明示する。
- ・アンケート調査等により、利用者の満足度をはかり、施策に対する総合的な利用者の満足度として70%の達成を目指す。

#### ②利用者数の向上

- ・野尻・須原線；現行比毎年5%増
- ・木曽病院線；現行比毎年5%増
- ・坂下病院線；初年度目標8人/便 以降前年比5%増
- ・デマンドタクシー；初年度目標8人/便 以降前年比5%増

#### ③住民意識の向上

- ・バスへの理解度向上  
「バス維持の必要性に対する認識」毎年3%増
- ・バスの利用向上  
「自ら利用によって維持に協力したい」毎年3%増

### 目標達成のために取り組む事業(案)

#### ①村内循環線の運行経路、時刻の見直し及び通院線の新規導入

- (実施主体；大桑村地域公共交通協議会  
運行主体：おんたけ交通(株) )
  - ・野尻・須原線の時刻の見直し
  - ・坂下病院線の導入

#### ②指定地区におけるデマンドタクシー実証運行

- (実施主体；大桑村地域公共交通協議会  
運行主体：タクシー事業者 )
  - ・伊奈川・小川地区等指定地域のデマンドタクシーの導入

#### ③公共交通利用促進PR

- (実施主体：大桑村地域公共交通協議会)
  - ・住民説明会の実施(利用方法の説明等)
  - ・地域賛同型(停留所看板への協賛広告)
  - ・時刻表・路線図の配布

### 期待される効果

- ・利用効率の良い運行携帯の導入で運行頻度を確保することにより、買い物等において自家用車利用から公共交通への転換が図られる。
- ・鉄道とバスの接続性の向上を図ることにより、利用者の減少に歯止めがかかる。
- ・既存バスの運行形態を見直すことにより、運行の効率化が図られ、経費削減につながり、住民ニーズにも応えられる。
- ・交通空白地域の解消。隣接町村並びに地域間の連携強化を図ることにより、高齢者の外出の機会が増え、地域の活性化が図られる。